



どるふいんプレゼント 第8回 福島の子どもたち宮崎に来んねキャンプ

主催：アースウォーカーズ 後援：宮崎市,日南市,小林市,串間市,えびの市,NHK 宮崎放送局,MRT 宮崎放送,UMK テレビ宮崎
協賛：どるふいん 毎日新聞社,朝日新聞社,宮崎日日新聞社,西日本新聞社,読売新聞西部本社

アースウォーカーズは、東日本大震災と原発事故の影響で外遊びを制限している福島の子どもたちの支援をしています。この度、2月17日～24日の8日間6歳以下の未就学児とその保護者 15人が宮崎に保養にやってきました。その活動を紹介しますので、是非ご覧下さい。

尚、月日とともに寄付が減少する中、今回の開催が危ぶまれましたが、コインランドリーどるふいんの幸森社長にメインスポンサーになっていただき、開催できる運びとなりました。また、ベルリンのKIBOUという団体から昨年に引き続き支援をいただきました。本当にありがとうございます。

2月17日(日) 1日目

福島駅、郡山駅で集合し、新幹線と飛行機を乗り継ぎ、移動しました。宮崎空港に到着後、学生ボランティアが参加者を笑顔でお出迎えです。緊張気味だった子どもたちも空港内のプロ野球・Jリーグのキャンプ特設コーナーを散策し、楽しんでいました。

そこから一週間お世話になるJFLのテゲバジャール宮崎のバスで、天空カフェジールに移動し、夕食です。美味しいオーガニック料理は、お母さんたちにも好評でした。お母さんたちは自己紹介の際、福島の現状についても話されており、「来んねキャンプのために保育園を休む理由を保養と言うか悩んだ」という話が印象的で、まだまだ私たちの知らない悩みが沢山あるのだと感じました。夕食を食べて子どもたちは元気になり、はしゃぎまわる子どもたちの相手に学生は手一杯でした。その後の青島サンクマールでの入浴では子どもたちもゆったり温泉を楽しんでいました。夜はコインランドリーどるふいんの幸森社長が用意して下さった青島第24区自治公民館で宮崎での初めての夜を過ごしました。

2月18日(月) 2日目

朝食は、コープ宮崎からドリンク・フルーツなどの朝食セット、らいふのばんからも菓子パンが届き、みんなで美味しくいただきました。朝食の前後で子どもたちは「肩車して」と、元気いっぱいの様子でした。午前中は北郷保育所の子どもたちと交流のはずが、保育所でイン

フルエンザが流行していたため、あいさつだけしてお別れでした。保育所の子どもたちも今回のために準備をしていたようで、残念でした。しかし、保育所が用意したプレゼントに子どもたちも喜んでいました。余った時間は、宮崎ならではのものを求め地元のスーパーのとむらへ。戸村本店の焼き肉のたれやキンカンたまたまなどを前に、お母さんたちも買い物を楽しんでいました。

昼食は南郷漁協で漁獲量日本一のカツオなどの美味しい海産物をいただきました。漁協の関係者によると、原発事故後、福島の港との関係が途絶えたそうです。福島ではあまり魚を食べないと話していたお母さんも、「美味しい！」と笑顔で食べていました。

その後のゆめ牧場では、ボランティアで育てられている沢山の動物と交流です。最初は大きなウマやヤギなどに怖がっていた子どもたちも少しずつ慣れてきたようで、ウサギの餌やりも楽しんでいました。特徴的な形をしたクジャクや動物独特の匂いなど、子どもたちにとって初めてのものが多かったようです。



国定公園の都井岬では、野生の馬を目の当たりにし、驚いた様子でした。灯台近くの展望台では見渡す限りのオーシャンビューに感動していました。

その間に、立宇津港の皆さんが夕食の準備をして下さいました。昼食に引き続き魚料理でしたが、炭火で焼いたカマスやタイはとても美味しかったです。子どもたちは大きなタイの大きさに驚いた様子でした。初日は緊張していた学生たちも徐々に慣れ、参加したお母さんたちから福島の実情や震災当時の話などを聞いていました。

その後、北郷温泉で一日分の疲れを取りました。お湯の温度が高くお湯に浸かれない子どももいましたが、少しお湯に浸かって少し水風呂に浸かるなど、子どもながらの工夫もしていました。学生は子どもたちと一緒に入浴する大変さを知り、母親のありがたさを感じた瞬間でもありました。翌日の海を楽しみにして、子どもたちは眠りにつきました。

2月19日(火) 3日目

朝から白浜海水浴場で海遊びの予定が、あいにくの雨によりあおしま子育て交流ひろばで遊ぶことになりました。お母さんたちは「汚染水が流れている福島の海に行かせていないので、海に入れてあげたかった」と、残念そうでした。しかし、室内で楽しそうに遊ぶ子どもたちを微笑ましく眺め、「子どもたちが楽しいのが何より」と話していました。

昼食はどるふいんの幸森社長のご協力の下、社長宅でのBBQです。お肉や野菜、おにぎりなど、沢山の美味しいものを用意していただきました。初めて使う戸村本店の焼き肉のたれでしたが、子どもたちもお母さんたちも美味しそうに食べていました。

その後、響座で太鼓体験を行いました。響座の持つ多くのメダル・トロフィーを背中に、先生に教わりながら演奏をしました。掛け声も先生に負けなくらい元気に出していました。最初はできないと言っていた子も上達し、発表会では習ったことを出し切りました。最後は日本一になった大太鼓の演奏に皆魅了されていました。お別れの際に貰った大きなカレンダーに、子どもたちは喜んでいました。「太鼓を演奏する機会は少ないので、貴重な体験となった」とお母さんたちも喜んでいました。

夕食は昨年に引き続き清武町にある、ふなやうどんを訪問。うどんの麺づくり体験の時間です。最初に粉に塩水を混ぜて、自分で作った生地を「おいしくな一れ」と言いながら一生懸命小さな足で踏んでいました。生地を休ませている間は食育に関するお話をしていただきました。「性」と「生」と「食」の繋がりや命の大切さを教えていただき、お母さんたちだけでなく、未来の親となる学生にとっても貴重なお話でした。生地が出来上がると自分で作った生地を本物の包丁で切りました。自分で作ったうどんは、いつも以上に美味しかったです。

その後はホテルマリックスでの宿泊です。「部屋が広かった」と、子どもたちはホテルに満足していました。

2月20日(水) 4日目

朝から西へ移動し、小林市の朋こども園に行きました。お寺で歓迎してもらった後は園庭で自由に遊びました。普段砂遊びができないので、ズボンが泥まみれになりながら熱心に遊んでいました。初めてどろんこ遊びする子どもたちは笑顔で大はしゃぎ。母親は目に涙を浮かべながら「福島では制限しているから」と呟いていました。

ここではUMKからの取材もあり、お母さんたちはカメラを介し、宮崎に子どもたちの様子や福島の現状を伝えていました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後には焼き芋やイチゴをいただき子どもたちは笑顔でした。

お昼は泉の鯉にお世話になりました。みんなで鯉に餌をあげた後に、美味しい鯉を頂きました。「鯉を食べるのは初めてだったけど、美味しいね」と、お母さんたちは喜んでいました。その後はイービレッジにお邪魔し、お母さんたちは食後のお茶を頂き、ほっとひと息しました。自然食品にも興味津々で、無農薬のイチゴや切り干し大根、マクロビのお菓子などを購入されていました。

午後は、西田農園で餅つき体験を行いました。簡単に見える餅つきも実際には難しく、学生の手を借りながら、子どもたちは頑張っていました。餅を食べた後はみんなでニンジンを掘りました。生でも美味しいニンジンに子どもたちも大満足。有機農業で作られたニンジンは安全な上に美味しかったです。



お風呂は青島サンクマールで2度目の入浴です。展望ベランダでは水面に浮かぶ月明かりとフェニックスが綺麗でした。内海に戻ると揚げたての串カツが準備してありました。盛り沢山食べた一日でしたが、夕食ももぐもぐ。宿泊でお世話になっている地元の自治会長さんらと一緒に食事をしながら交流をし、多くの人に支えられていると感じました。

2月21日(木) 5日目

快晴のこの日は出発を1時間早め、白浜海水浴場に行きました。最初は怖がっていた子も波に向かって走り出すほどに宮崎の海を楽しんでいました。波から逃げたり、砂浜に絵をかいたり、砂を大人に投げたり、皆それぞれの遊び方で楽しんでいました。普段海に連れていけないため、お母さんたちも喜んでいました。



その後、ホースパークで乗馬体験を行いました。到着が遅れ、ゆっくりできなかつたためか、「もう一回乗りたい」という子どもも多く、楽しんでいる様子でした。「福島で乗馬できる場所は山が多く、山は除染が進んでいないので、今回乗馬をさせることができて良かった」と、お母さんたちも貴重な体験に喜んでいました。その後の馬への餌やりでは、大きな馬を少々怖がりながらも、スタッフのアドバイス通りに学生やお母さんたちと一緒に自分の手でニンジンを与えていました。

昼食は山椒茶屋でえび天や野菜天の乗ったうどんを食べました。子どもたちも沢山食べており、出汁の効いたおつゆが絡んだうどんに満足していました。お母さんたちも「宮崎のうどんは他のうどんと少し違ってもちもちしているけど、これも美味しい」と宮崎独特のうどんも好きになってくれたようです。

午後は、シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートに行きました。広い芝生で思いっきり走った後はボールやフリスビーで、思い思いに遊びました。テゲバジャーロ宮崎の主将・石井選手にも来ていただき、一緒に交流をしました。「裸足で芝生を感じられて、貴重な体験ができた」と喜んでいました。その後、外が見えるエレベーターで最上階(43階)に昇った先には海岸線を一望できるウエディングルームが。皆、その景色に大興奮でした。その後、露天風呂で一日の疲れを癒しました。そこで拾った松ぼっくりを大事に持ち帰った女の子のママは

「娘は松ぼっくりが大好きだが、福島では放射線を気にして家に持って帰るのが不安で、公園に近づけないようにしていました。宮崎の松ぼっくりを持って帰らせてくれたです」と笑顔で語ってくれました。



夕食はバイキング形式で、どれも美味しかったです。同じ場所でソフトバンクホークスの福田選手も食事をされており、サインや写真に協力していただきました。その後のデザートには焼きマシュマロが待っており、中庭で上手に焼いて、頂きました。最後のプレゼントも喜び、帰りのバスは皆疲れ、ぐっすり眠りました。

2月22日(金) 6日目

この日まで宿泊させて頂いた公民館の清掃を終え、少し早めのランチを平和台公園のsizenでとりました。オーガニック料理が並んだバイキングは、どれも美味しかったです。そのあと、はにわ園に行きました。雨の中、子どもたちは水溜まりなどに興味津々で、晴れの日とは違った楽しみ方をしていました。福島では、山の方は除染が進んでいないので、貴重な体験となりました。カメラに向かってはにわポーズをとる子どもたちからは、楽しんでいる様子がうかがえました。最後にはひむか村の宝箱の池辺さんよりソフトクリームをいただき、子どもたちは美味しそうに食べていました。

雨のため急ぎよ向かった清武児童館で夢中に遊ぶ子どもたちを見ていると、私達も嬉しくなりました。

次の清武温泉は設定温度が低く、子どもたちも長く風呂に入っており、リラックスした様子でした。

夕食の天照うどんでは、宮崎に来て3度目のうどんでしたが、一人前のうどんを一人で食べてしまう子どももおり、びっくりしました。もちもちとしたうどんが特徴的でも美味しかったです。

この日から、日向学院中学高校のご協力の下、学校の所有する海の家を利用して頂きました。中田先生をはじめ学校の先生方と学生ボランティアで受け入れ準備を整えたところに子どもたちが到着。雰囲気の良い木造の

広いホールで走り回った後は、上の階で眠りました。

2月23日(土) 7日目

朝からコインランドリーどるふいんの幸森社長親子に2隻の船を出してもらい、乗船体験をしました。波が高く出港できるか不安でしたが、みんなで船に乗り、2階に行ったり、運転したりしました。「イルカさん出てこい!」と叫ぶ子どももおり、興奮していました。イルカは見えませんでした、「普段海には近づけていないので、波を感じさせることができてよかった」とお母さんたちも喜んでいました。学生やお母さんたちの中には船酔いした人がいましたが、子どもたちは誰も酔わなくて良かったです。



昼食はどるふいんと九州労金労組の皆様にお世話になり、焼きそばとBBQを振る舞って頂きました。昼食の準備ができるまでは芝生や池で裸足になって遊ぶ子どももいて、まだ遊び足りない様子でした。久々の外での美味しい食事にお母さんたちも、「震災以降、外での食事の機会がなくなったので、貴重な体験となった」と喜んでいました。食後も子どもたちは元気に遊んでいました。

宮崎の観光スポット堀切峠に立ち寄った後は、2度目の北郷温泉での入浴でした。「今日のお風呂は早いね」という子や「自分好みの熱めのお湯に浸かれてよかった」というお母さんなど様々でしたが、皆それぞれ宮崎での最後の入浴に満足していました。帰りに温泉で野菜を買うお母さんもいました。

さっぱりした後は日向学院の海の家でお別れ会が待っていました。数えきれないほど多くの方々に集まっていた頂きました。夕食を準備して下さったのはグリーンコープ。朝食だけでなく、今年からはお別れ会のカレーも提供して下さい、調理もボランティアで参加して頂きました。カレーをはじめ、いろんな方々の差し入れもあり、

様々な美味しい料理が並んでいました。宮崎センター合唱団の皆様のコーラスによってお別れ会が始まり、その後食事をしながら皆それぞれの思いを共有していました。福島の現状を少しでも多くの人に知ってもらえたかなと思います。豪雨災害復興支援ボランティアの発表で私達の活動を知ってもらった後、来んねキャンプのスライドを流しました。一週間でいったことを、写真を見ながら回想していました。その後、3人の学生がスピーチをしました。初参加や4回目の参加など、様々な立場からのスピーチでしたが、この一週間で多くを学んだようでした。そして、6人のお母さんたちのスピーチ。参加までの思いと参加してよかったことなどを言ってくださり、その所々にお母さんたちの悩みが込められていたように思います。その後、お母さんたちに色紙を贈呈し、幸森社長、小玉代表の言葉の後、皆で写真を撮影し、閉会しました。皆が帰った後も、学生とお母さんたちは夜遅くまで語り合っていました。

2月24日(日) 最終日

来んねキャンプもいよいよ最終日。朝から時間の許す限り、子どもたちは学生たちと一緒に遊んだり、肩車してもらったりしていました。宮崎での最後の食事をとり、荷物を整理したら2泊させてもらった日向学院の海の家を後にしました。空港では宮崎のお土産をそれぞれ購入し、搭乗前のお別れでは、お母さん達から学生たちへのメッセージが寄せられ、感極まる時間に。昨日流したはずの涙が、お母さんたちからも子どもたちからも学生たちからもポロポロ。「息子は転んだり、怒られたりしたとき以外で泣いたのは初めて」と言うお母さんもおり、それほどに宮崎での活動を楽しんでくれたのかなと思います。最後は全員の学生とタッチしてから飛行機に乗り込みました。雨の降る中、学生たちは展望台に上り、福島へ帰っていく15人の参加者に見えなくなるまで手を振り続けていました。福島に帰っても、宮崎で見せてくれた元気をそのままに、大きく成長してくれることを願っています。

どるふいんの幸森社長をはじめ宮崎で協力して頂いた飲食店、農家、温泉などすべての企業、団体、個人の方々、および日本国内外から支援して頂いている300人を超えるサポーター会員の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。